

さざんか

第109号、2010年12月

とうとう今年も終わりますね。毎年感想は同じで、時の流れは早い。でも、ひとによっては長い一年だったかもしれませんね。絶対的な時の長さではなく、相対的な時間の流れの中で人々は生きているのでしょうか。

さて、今年は当院では多くの出来事がありました。いいこと、悪いこと両方ありました。残念なことは、またまた医師の数が減ったことです。外科と放射線科がそれぞれ減員になりました。いつまで続くか底の見えない医師不足の波が続いています。予想ではまだ10年近くは地方の公立病院の医師不足は続きそうです。希望的観測は外れ、悲観的予想は当たってしまうのが悔しいところです。

良いことかどうかは分かりませんが、外壁のペイントの塗り替えが終了しかけております。年内にはほとんど完成しそうです。昭和61年以来の化粧直しですが、新築病院の気分で初心に帰り来年も頑張りたいと思います。みかけも大事。

あとは、5年ぶりの病院機能評価受審と、経営的にはDPC参加がありました。どちらも病院の質の向上に役立っていると確信しております。

残念と云えば、高齢化に伴ってかどうか、多くの患者さんがなくなりました。天寿を全うした方、志半ばで倒れた方、沢山のやるべきことを残したまま亡くなった方、ひとそれぞれですがこの場を借りて皆さんのご冥福をお祈りしたいと思います。

みなさま。楽しく、穏やかな年末年始をお過ごしください。来年も「さざんか」をよろしく願いいたします。

俳句 西屋敷喜美子

マイカーの クッション替へて 冬うらら

リハビリへ 行く気の失せる 霜の朝

厨房の 疲れ果てたる 師走かな

病院からのお知らせ

* インフルエンザの予防接種はもうお済みですか。まだの方はお早目の接種をお勧めいたします。各科外来で実施しております。

* 肺炎ワクチンの予防接種もご希望の方は各科外来に申し出てください。予約制になっております。

* 7月から当院はDPC対象病院となり入院、外来のシステムが若干変わりました。具体的には、主として長期入院が困難になります。そのかわり、リハビリテーション中心の亜急性期病床などの設定がありますので、それらをご利用いただいております。

亜急性期病床は20床分準備してあります。

* 寒い季節となってきました。感染予防のため、訪問される方はマスク着用をお願いいたします。

* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。

骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみたいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。

骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。

* MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながるからです。また、脳動脈瘤（くも膜下出血の原因となる）の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。

無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。

* MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。

* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。近年乳がんが増加傾向です。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

県立北薩病院の理念

慈愛・協調・前進

短歌 瀬戸よし子

鶯の季節はずれの鳴き声に梅の小枝をたしかめに行く
草むして朽ち始めたる廃屋を派手に色どるつたかずらの葉

介助で出来た長旅 平城 ミエ

長い人生には思いも かけぬ事が起こるものである。専門学校で机を列べて学んで以来 60 有余年、ついぞ病気で休んだことなど、聞いたこともない北海道の友人から、肺癌が見つかったと言う電話を受けて、急遽逢いに行くことに決めた。季節がどうのこうのと御託を並べている内に、事情がどうなるか予測もつかないし、第一電話ではまだるっこしい。然し電動カー無しえは百メートルも歩けぬ身障者、同行の友人が抜かりなく取り計らってくれて、乗り継ぎ一切介助していただけることになった。

午前第一便の東京行き鹿児島空港出発の際から、羽田、新千歳、そして最終目的地美唄の JR 駅まで、一糸乱れぬ見事な連携プレイで、感動するばかりであった。到着時刻の正確な把握、移動手段の手際の良さ、正確な車椅子の操作技術、そして利用者に対する心配り、どれ一つを取ってみても、嘗てそれを職業としていた私から見ても、かなわな いと思わせる完璧さであった。

たった一人の客のために、幾人も手を煩わしこれだけの時間をかけて対応するのだから、運賃に介護加算が有っても、当事者としては有難く当然と思えるのに、全面サービスとは勿体なく有難いの一語に尽きる。

乗り継ぎ空港の移動動線の長さ、エレベーターの位置、迷路のような通路の繋がり、健常者でも高齢となれば迷う道程を、身障者の私が懇切な説明を聞きながら、何の苦もなく目的地まで運んでもらえる。感謝のほか無い。帰路は大口行きバスの発着所まで、荷物と共に運んで戴いた。後期高齢者しかも身障者でも、長途の旅が安心して出来ることを、身をもって体験した。関係者の皆様ほんとうに有難う！

件の友は無事手術終了、第 4 病日の朝病室から元気な声で電話してきた。良かった！
良かった！

新年を迎え今年こそは心機一転、良い年でありますように新たな気持ちで初日の出を妻と共に祈願した。

新しい目標に向かって、一步でも前向きに取り組む決意でいます。妻と結婚して丁度 50 年、一つの節目でもあり少なくともこれまでの人生の中での嬉しかった事、楽しかった事、悲しかった事、嫌な事があった。

併し過去は過去の事として全て清算し残された人生を有意義に過ごしたり、これを自分の目標として妻と共に健康に留意しながら、生命のある限り妻と一緒に頑張りたいものです。7 年前 91 歳で他界した母は一人身で二人の子供を育て乍らも力強く生きて来た。その母がいつも口にしていた言葉を思い出しています。それは、人間、真面目で正直に生きることです。

昨今のテレビニュースを観ると、暗いニュースばかりが頭をよぎります。交通事故、殺人事件、PTT 自由化問題、年金問題、消費税、就職問題、医療費、少子高齢化の問題等社会情勢は否、日本の国はどうなるのであろうか。不安でならない。今の政治家たちは何を考え、どこを進もうと言うのであろうか。田舎暮らしの私達は、何を目標とし、何を考え生きて行けばいいのだろうか。

私の友人で杉の木立の山小舎を憩いの場として、集落は勿論、遠くは県内外、ときに県外からも訪れる程の人気の場所で、気兼ねなく話せる。日頃の生活について、また、今の世の中の生き方、老後について、年金問題等、老いた自分等について話題がはずむ程だ。時に色気の話もある程で、ひとの出入りが絶えない。私がこの山小舎に出入り始めて早や 1 年になり、以前より心にゆとりがあり、生き甲斐が見られるようになった。昔は良く茶飲ん場所、正中飲ん場所があったのだが、今はその光景は全く見られない今日である。自分達は先の見えない社会を克服するために、人との親しい交流があってしかるべきではなかろうか。明日の幸せを願いつつ、お互い精一杯努力することではなかろうか。

わーは一はっはっは、はあー、は一つ。 (カラーマンとその女)

2010 年もそろそろ終わろうとしている。数年前、九州新幹線が全線開通するのはまだまだ先の事なんだなあと思っていたら、もう、来年 3 月にいよいよ開業である。

は、早い。この調子でいくと、数年後にはもしかしたら俺もこの世をおさらばかもなあ、などと思っていたら、実はそれは明日だったとかいうことにもなりかねない。

(まあ、そこまでは大げさではないにしても、それでも時の流れは早いわねえ。平安時代

とか室町時代も同じような時間感覚だったのかしら。まあ、あのころの庶民は新聞もテレビもネットもないから、時間に対する感覚は根本的に違っていただしょね)

想像するに、昔々の人たちは、特に下っ端の庶民たちは、毎日夜明けとともに起きて、目一杯働き、日暮れとともに休む、ということの繰り返しだったろうから、意外と時間は長かったのではないだろうか。あるいは長いとか短いとかの、感想も持たなかったのかもしれない。

さて、今年は個人的にもっともショックというか打撃を受けたことは、なんと 2 本も抜歯をせざるを得なかったということだ。

大体、歯科医ほど怖いものはないし、歯科医ほどお世話になったものもない。子供のころから、歯医者さんが怖くて、どうにも痛くてたまらなくなって初めて受診する臆病者であったのだ。

(そういえば、昔は予防歯科とかいう概念はなかったから、悪くなってから歯医者さんにいくのが普通だったわね。)

なんか歯医者さんの診察台に横になることだけで、緊張して思わずこぶしを握り締めてしまうのだ。なんで、こうまで悪くなる前にもっと早く来ておかなかつたかなあ、と全然的な外れの感想を持ったりする。ふん、そんな勇気があれば、抜歯などという最悪の事態には陥らないわ、とひとりごちる。

そもそも、体の一部を電動器械で削ったり、根こそぎ取ってしまうなどと、何とも野蛮で考えられないことではないか。何とかならんのか。何で歯は爪や髪の毛みたいに生えてこないのだ。歯が毎日伸びてきて、歯医者ではなくて、歯研ぎ屋さんがあっても良かったではないか。そうすれば抜歯みたいに怖い思いをしなくてすんだのじゃないか、などとたわいもない妄想を掻き立てながら、じっと俎板の上のコイか、スピード違反の切符を切られるドライバーのようにあきらめの心境になろうと試みる。

抜歯されるということは、若さを根こそぎ失うような気持である。だいたい、芸能人は歯が命というではないか。この前、テレビで歌っていた小椋佳は 60 歳代とは思えないきれいな真っ白い歯をしていたぞ。

(ま、銀歯とか金歯の芸能人はいないわね。そもそも映画やテレビでは、虫歯があるという見かけ上の設定をする必要もほとんどないでしょうしね。目が見えないとか、耳が聞こえないという設定は多いにしてもね)

真っ白な歯とピンクの歯茎は清廉さや若さや健康の象徴であろう。そういう意味では抜

歯は、不健康で、老化の象徴でもある。くそっ。くやじい。抜歯に至る前に、きちんと治療をしておけば良かった。どうせ歯医者さんのお世話になるくらいなら、早くから勇気を出して歯医者さんに行くべきだったのだ。

まあ、それでも最近はインプラント治療というのがあるのが、少しは救いであったかもしれないが、それでも歯を失ったという事実は変わらない。

それでも。そうだ、俺はサイボーグ 009 だと思えばいいのかもしれないぞ。より丈夫な歯へと、部品をかえるだけなのだ。そして、部品をさらにグレートアップして人類に貢献するのだ。うーん。空しい。覆水盆に返らず。いくらインプラントで埋めても、空しさは変わらないが、でもそれが老化というか、人間のたどる道筋なのであろうから淡々と受け入れるべきであらう。まだ、歯は死んでも命は死なないことに感謝すべきであらう。

(やれやれ、たかが抜歯で、本当に大げさな人ねえ。あきらめなさい。世の中には、沢山の思いがけない事故や病気、がんなどで苦しんでいる人がいるのだから、たかが、歯くらいで大げさに言わないでほしいわ)

ふん、たかが歯、されど歯なんだぞ。とはいえ、もう済んだことなのでどうしようもないか。

そうだよな。今年最後の大笑いでごまかそう。わーは、歯、歯っ、はあ、はっ。むなしく、そして悲しい今年最後のカラーマンのつぶやきでした。また、来年もまったく無意味な非有意義的カラーマンシリーズをよろしく願いいたします。

編集後記

みなさま、今年も「さざんか」ご愛読ありがとうございました。今年はどんな年だったのでしょうか。良い年でしたか。今年が良かった人には来年も良い年であるように、今年悪かった人は来年こそは良い年であるように願っております。でも、禍福は糾える縄のごとし。良いこと、悪いこと色々あっての人生なのでしょうね。来年もよろしく願いいたします。(KT)